

小高の自然調査事業

平成23年(2011)に発生した東日本大震災の地震・津波によって、南相馬市は家屋や道路・水田などの生活基盤に多くの被害を受けました。くわえて、原子力発電所事故の影響が復旧を長期化させました。

南相馬市小高区では、これまで動植物についての総合的な調査がなく、震災による動植物の変化を理解するための基盤となる情報が整備されていませんでした。そのため、南相馬市博物館は平成28年(2016)から令和4年(2022)にかけて、地質・化石、動植物を対象とする総合調査「小高の自然調査事業」を実施しました。本展ではその成果を紹介します。

■地質・化石

小高区は双葉断層を境にして西側には白亜紀の花崗岩類が、東側には1800万年前以降に堆積したさまざまな地層が分布しています。

なかでも、小高区塚原から原町区小沢にかけて分布する第四紀後期更新世の地層「塚原層」からは貝類を中心に7000点近い動植物の化石標本が採集され、90種以上が記録されました。



八丈石山花崗岩
(白亜紀)



メイセンタマガイ?
(五安層)



タマツボ(塚原層)



鯨類化石(大年寺層)

■植物

小高区在住の櫻井信夫氏が長年かけて採集された約8000点の植物標本と、今回の調査で得られた標本約2500点から、小高区で確認された植物は1004種類に上りました。



←コハマギク



↑ハマナデシコ

■菌類

小高区の菌類(キノコ)は懸の森を中心に193種類が記録されました。

絶滅危惧種の菌類のほか、福島県で初の種類も確認されました。



タマゴタケ



コウボウフデ

■哺乳類

小高区の哺乳類は28種が記録されました。アンケート調査から、中・大型哺乳類の生息状況の変化が確認されました。



アナグマ

■鳥類

小高区の鳥類は145種が記録されました。特に、小高川や宮田川の河口域とその周辺に存在する湿地帯は、絶滅危惧種を含む多様な鳥類の生息地であることが確認されました。



アカツシガモ

■昆虫

小高区の昆虫の調査では、陸生コウチュウ、バッタ、アリ、チョウ、トンボ、水生昆虫である水生カメムシ、水生コウチュウ、カゲロウ、カワゲラ、トビケラなどの仲間から約500種が記録されました。



ムラサキトビケラ



スナアカネ



キボシケシゲンゴロウ



シータテハ



トゲアリ

■企画展関連事業

「小高の自然調査事業 成果報告会」

調査で得られた成果について、各専門分野の先生がたから報告していただきます。

日時：4月14日(日)
10:00～12:00 [化石・動植物の部]
13:00～15:30 [昆虫の部]
定員：80人(申込不要)
会場：博物館シアター

「小高の自然観察会」

日時：4月28日(日) 9:30～12:00
定員：30人 場所：小高川周辺
※3月30日(土)9:00から申込受付開始。
詳細は博物館までお問合せください。
TEL:0244-23-6421

南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194
TEL 0244-23-6421 FAX 0244-24-6933
E-Mail : hakubutsukan@city.minamisoma.lg.jp
<https://www.city.minamisoma.lg.jp>

